



湘北短期大学の SDGs について ご紹介するニュースレターです

～発行者からのお知らせ～

23年度から、Webサイト湘北SDGsを開設し、授業や大学全体の取り組みを紹介しています。

ニュースレターでは、Webサイトに掲載した記事の中から、学科の授業や部門ごとの活動を、カテゴリー別にまとめて紹介していきます。

今後とも湘北短期大学は地域に根ざした教育機関として「Think Globally, Act Locally」を合言葉に、社会課題の解決にむけて持続可能な未来の創り手を社会に送り出していきたいと思います。

SSSのプログラム関連サイト

一般社団法人
Think the Earth



一般社団法人イマココラボ



2030SDGs 特設サイト



湘北 SDGs

Think Globally, Act Locally.

2025年度 第12号

(通算第38号)

今回の発行人 築瀬千詠

yanase@shohoku.ac.jp

学校法人ソニー学園 湘北短期大学

生活プロデュース学科・リベラルアーツセンター

〒243-8501 厚木市温水 428 TEL:046-247-3131 FAX:046-247-3667

【授業紹介】

湘北スタートアップセミナーで SDGs を学ぶ (2026年2月-3月)

多角的な視点で世界を読み解くー なぜ入学前に SDGs を学ぶのか？

2022年度以来、毎年対面で実施している初年次教育科目「湘北スタートアップセミナー (SSS)」。今年もその中の主要なプログラムの一つとして「SDGs ワークショップ」を実施しました。

今年度新たにファシリテーター資格を取得した実務家教員も講師の一人として教壇に立ち、一般社団法人 Think the Earth が SDGs for School 認定エドゥケーター向けに提供している「SDGs 新聞ワーク」と、一般社団法人イマココラボのカードゲーム「2030SDGs」を実施。そこに今年は「利他のこころ」を組み込んで、より実践的な構成へと進化させました。このワークショップの目的は、単なる知識の習得ではありません。これから専門分野を学ぶ新入生たちが、「世界は繋がっている」というシステム思考を養い、自らの学びが社会の持続可能性にどう直結するかを肌で感じることにあります。

思考：新聞ワークで磨く「情報の解像度」

前半は、朝日新聞社提供の「SDGs 新聞ワーク」を活用。いくつかの記事の中から、自分たちの関心に近い社会課題をピックアップし、SDGs17の目標との関連を考えながら SDGs 付せんを貼って分析しグループ内で共有しました。初日の授業で 熊野先生が説いた「情報の解像度を上げること」を実践する場として、学生たちは新聞という一次情報に触れ、世の中で起きている事象を多角的に読み解きました。自分の専攻学科（総合ビジネス・情報学科、生活プロデュース学科、保育学科）それぞれの視点から記事を選ぶことで「専門性が社会貢献の武器になる」という実感が芽生えるプロセスとなりました。

体感：カードゲーム「2030 SDGs」が教える世界のリアル

後半は、カードゲーム「2030 SDGs」を体験。プロジェクトを実行し、経済・社会・環境のパラメーターを変動させながら 2030年の世界をシミュレーションしました。最初は「自分のゴール」達成に必死だった学生たちですが、経済だけが発展し環境が破壊される世界の惨状を目の当たりにし、教室の空気は一変します。「誰かの成功が誰かの犠牲の上に立っていないか?」「他チーム（他国）と協力しなければ、世界は救えない」――。

受講生アンケートでは「自分の行動一つで世界のメーターが動く怖さと責任を感じた」「一票の重みや政治・経済の仕組みが自分事になった」といった、深い気づきの声が多く寄せられました。

受講生アンケートから見る「SSS が提供した価値」



3日間のセミナーを終えた学生へのアンケート結果からは、以下の3つの大きな価値が浮かび上がりました。

■「思う」から「考える・動く」への意識変容

「なんとなく良いことをする」という受動的な姿勢から、社会の仕組みを理解し、主体的に「どう動くべきか」を考える能動的な姿勢へ。多くの学生が「大学生活の解像度が上がった」と回答しています。

■「利他のこころ」を実践する

概念としての「利他」が、ゲームやワークを通じて「他者との協力」「資源の共有」といった具体的な行動指針として定着しました。帰属意

識とパートナーシップの形成 学科の枠を超えた合同ワークにより、「同じ志を持つ仲間」との繋がりを実感。

アンケートでも「他学科の人と話せて、多様な考え方があることを知ることができた」という満足度が極めて高く、4月からの学びへの安心感に繋がっています。

2026年度のSDGsプログラムは、新入生に「世界を読み解くレンズ」を授ける時間となりました。

本学はこれからも、複雑化する社会の中で立ち止まることなく、利他の心を持って最適解を模索し続け「世界を変革（transform）する」学生の育成を目指してまいります。

（リベラルアーツセンター 築瀬千詠）

【高大連携】「SDGs」をテーマに高大連携教育研究会を開催（2026年3月12日）

2026年3月12日、本学において第26回高大連携教育研究会を開催いたしました。連携している高等学校の教員のみならず、本学教職員、および学生スタッフが一堂に会し、これまでの連携実績の共有と今後の教育の在り方について、熱心な議論が交わされました。



■ 第1部：事例報告

- ・「湘北体験デー」およびSDGs教育における連携授業の実践
- ・報告者：神奈川県立厚木清南高等学校 石川 亮太 教諭

第1部では、2024年度に実施された「湘北体験デー」および、その後の「SDGs×キャリア」をテーマとした連携

授業についてご報告いただきました。石川先生からは、具体的なデータに基づき、これらの取り組みが高校生にとってどのような教育的効果をもたらしたか、その意義の大きさについて詳述していただきました。

■ 第2部：グループディスカッション

- ・SDGsをテーマとした今後の高大連携教育について
- ・ファシリテーター：湘北短期大学生活プロデュース学科 二見 総一郎 専任講師

続く第2部では、高校の先生方、本学教職員、本学学生を交えてグループディスカッションを行いました。

SDGsという共通の教育テーマを軸に、高校・大学それぞれの視点から活発な意見交換がなされました。

特に、大学生が議論に加わることで、高校側からは見えにくい「学びの継続性」や「学生の成長」を直接感じられる貴重な機会となりました。

■ 参加者の声と今後の展望

終了後の対話やアンケートでは、参加された先生方から以下のような前向きなご意見を多くいただきました。

「大学生と直接交流することで、高校での指導に活かせる新鮮な気づきが得られた」

「大学との意見交換で連携の意義を大変感じました。また、他学校の実情も伺うことができ、参考になりました。」

本学では、今回の研究会で得られた成果とネットワークを活かし、今後も地域高等学校との連携をより一層深め、質の高い教育機会の創出に努めてまいります。ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。

（生活プロデュース学科 二見総一郎）